

ここからは、この制度を運用するにあたり、皆さんからよくいただくご質問や不安についてお答えします。地域特性や要援護者の状況等により、全てが皆さんの地域に当てはまることはないかも知れませんが、問題を解決するためのヒントにしてください。



質問 1

町内にいる要援護者をどのような方法で把握すればよいでしょうか？



取り組みのヒント！

岡崎市は「災害時要援護者支援制度」を設けており、災害時に避難誘導を手伝って欲しい方が、事前に市に登録するしくみがあります。

この登録は、以下のような時に活用することを目的としています。

① 災害時の危険情報の提供と避難誘導



② 日ごろの見守りなどの地域福祉活動



③ 日ごろの防災訓練などの地域防災活動



- 登録者の一覧表である「登録災害時要援護者支援名簿」は、市から、取り組みの推進役となる防災防犯協会長、地区の民生委員児童委員、学区福祉委員会委員長に提供されます。
- この情報は、組長や組員らと共有することができます。
- ただし、不要な情報漏えいを防ぐために、上記以外の目的での使用や、ご本人の同意なく上記以外の者に情報を流さないということを条件に、要援護者の把握が可能です。

質問2

名簿は誰が管理するのですか？また、どこまでの人に開示してもいいのですか？



取り組みのヒント！

登録者の名簿管理は、ご本人の同意を得た上で、以下の表に基づいて行います。

管理するもの	管理する人
災害時要援護者台帳	岡崎市（福祉保健部・消防本部で共有）
登録災害時要援護者支援名簿	ご本人が居住する地区の ・ 防災防犯協会長 ・ 民生委員児童委員 ・ 学区福祉委員会委員長

※名簿の情報は、組長又は組員まで共有することができます。

質問3

「個人情報の問題があり、登録したくない」と言われてしまったのですが…。



取り組みのヒント！

- 災害時要援護者支援制度のパンフレット（※45～47ページの資料参照）を見せるなどして、納得していただく工夫が必要です。この登録は、たすけあいをスムーズに行うために進めていること、大きな災害が起きた際には、近所の人が一番たよりになることや、情報が漏れないように徹底している等を伝え、相手の様子を見ながら、働きかけを進めていきましょう。また、決して無理強いする必要はありません。時期をおいて、再度訪問のタイミングをみつけましょう。
- ご本人と日常から関わりのある方（民生委員児童委員、ヘルパー、訪問看護師、家族、近所の方、仲のよいお友だちなど）の協力を積極的に得るなどして、進めていくことが重要です。



質問4

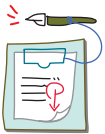
町内には、行政から提供された登録災害時要援護者支援名簿には載っていないが、支援が必要と思われる方がいるのですが…。

また、「自分は今更登録などしなくてもいい」と拒まれる方がいます。どのように対処したらいいのでしょうか？



取り組みのヒント！

- 名簿登録者以外で、もし地域の中に心配な方がいる場合は、地域が独自で登録を勧めたり、把握しておくことが必要となります。
- 拒まれる方については、まず最初に「なぜ拒まれるのか？」その背景に目を向けてみましょう。例えば災害の知識に乏しく、危機感が低いという理由があるかも知れません。また一方では、「人の手を煩わせたくない」「みんなが大変な時に自分ばかり助けてもらうのはわがまままだ」などという遠慮かも知れません。考えられるいくつかの要因をひとつずつ解消しながら、困った時や不安な時に「助けて！」と自然に言うことのできる関係や、環境を根気強く作り上げていきましょう。
- 地域の方の粘り強い訪問活動によって、制度の趣旨を理解し、周囲の人が気にかけているということが伝わって、登録に同意されるケースも多くあります。



モデル地区での取り組み

■ 根石中4丁目町内会の場合

- 災害時に支援が必要だと思われる方については、まず回覧版での呼びかけを行い、次に、防災手帳や災害時要援護者支援制度のチラシ配布をきっかけとして、総代、町福祉委員で戸別訪問を行いました。
- まず、訪問時には日常生活での不安、普段興味があること、普段求めている地域情報などについて話を深めました。その後、聞き取りシート（※次ページ参照）に沿って、この地域で予測される災害、居室内の防災危険箇所のチェック、備蓄品などのアドバ

イスを行いました。そして、避難誘導の必要性や支援方法を、ご本人・ご家族の意見を交えながら検討しました。

- 戸別訪問を通じて、ご本人と地域の間にはいかに接点（信頼関係）を作っていけるかが、事業推進のための大きな要となると考えていました。そのため、まずはご本人の不安に耳を傾け、ご本人やご家族が何を望んでいるのかを丁寧に聞き取り、話し合いを重ねていくという作業に重点を置きました。
- 結果、市から提供された災害時要援護者名簿の登録者は11名でしたが、地域独自で25名の要援護者を把握することができました。この方々については、市への名簿登録も勧めていきます。

聞き取りシート

災害時要援護者支援活動について

過去の防災（地震）避難訓練では、高齢者や身体の不自由な方（要援護者）へは安否確認、声かけ訓練を行っていましたが、今年度は更に、災害時要援護者支援を主に活動し、避難訓練も行い、災害時の問題点等の把握も行いたいと思いますので、ご協力お願いいたします。

* 最近地震が各地で起こっていますが、地震に対する不安は？

* 災害時自分自身の安全確保は？

・自分の身を守りましょう ・寝室の家具は固定されていますか

・避難通路はどうでしょう ・非常持ち出し品は準備されていますか

* 災害時には支援が必要でしょうか

* 緊急時の連絡先はどうでしょう

* 避難訓練には参加できますか

* 災害時に備えて町に要望や期待はありますか

組 氏 名



質問5

行政が定める災害時要援護者の条件に当てはまる人の中でも、家族で対応できたり、ご本人が元気に動ける方もいて、支援の必要性に疑問があります。



取り組みのヒント！

- 上記条件はあくまでも目安です。これに当てはまる場合でも、ご本人が自力で動けたり、家族や隣近所で既に支援体制が整っている場合は、必ずしも登録が必要とは限りません。しかし、ご本人が不安を抱えていたり、支援の希望を出されている場合は、その必要性について、十分に議論した上で結論を出しましょう。
- 対象となる要援護者をより分かりやすく整理するために、下記のような支援区分を市として提案しています。
- より沢山の支援が必要な方から、「A：赤色」「B：黄色」「C：青色」と、色分けした「災害時要援護者支援マップ」を作っておくと、より把握しやすくなります。

支援区分の行動例

区分	色	項目	目安となる基準
A	赤色	対象者の条件	・ねたきりなど自力では動けない方
		支援方法	・担架、リヤカー、車椅子などの道具を使って避難誘導を行う
B	黄色	対象者の条件	・自力で動けるが、足腰に不安のある方 ・自力で動けるが、避難判断に不安のある方
		支援方法	・見守り程度の避難誘導を行う
C	青色	対象者の条件	・自力で動けるが一人暮らしの方
		支援方法	・安否確認を行い、必要に応じて避難誘導を行う

要援護者マップの例



※要援護者の名前は要援護者支援名簿の番号を参照 ◆区分=赤：A（要介助） 黄：B（見守り） 青：C（声かけ） 緑：支援者
 ⊕ 駐車場 ∨ 畑 山荒地 ⊆ 竹林

質問6

災害時要援護者の具体的な支援方法を、どのようにとりまとめればよいのでしょうか？



取り組みのヒント！

- 市から提供された登録災害時要援護者支援名簿をもとに、町内独自で「災害時要援護者台帳」を作ってください（12ページ参照）。
- 特に必要とする救護・支援の内容、必要な支援者の人数、地域支援者の名前、支援の区分、寝室の位置などが把握できていると、より早い支援につながります。
- この台帳雛形は、あくまでも参考ですので、地域で使いやすい書式に変更して頂いてもかまいません。モデル地区では、独自の書式で「災害時要援護者台帳」を作りました（雛形12ページ、根石中4丁目町内会13ページ、藤川西部町内会14ページ参照）。

災害時要援護者台帳雛形

災害時要援護者台帳

この台帳は、**町が市からの情報提供及び、本人の申告に基づいて作成したものであり、災害時初期の避難に必要な要件を記載したものです。

No	16
作成日	平成20年7月29日

(取扱注意)

(**) 防災防犯協会

組・(組長名)	12組 (岡崎 太郎)		
よみがな	ほんだ ただかつ		
要援護者の氏名	本多 忠勝	電話	48-1234
住所	岡崎市藤川町字藤川1番地1 ハイツ ふじかわ101号室		
年齢・性別	明治・大正・昭和・平成 15 年生まれ	82歳	男・女
要援護者区分	高齢者・障がい者(身体・知的・精神)・日本語理解不能者・その他		
身体障害情報 (身体記載場合)	上肢・下肢・視力・聴力・言語・内臓疾患		
必要とする 援護・支援の内容	100mくらいならば、杖と介助者がいれば歩行可能 左手が不自由なため、介添えが欲しい		
家族構成 (任意項目)	妻(歳) 50歳の娘と2人暮らし		
緊急時連絡先 (任意項目)	本多 正純	電話	0563-55-1234
	本多 義直	電話	48-9900

これらの欄は、市からの名簿を転記します

主に就寝する場所の平面図(任意項目)

見取図を描くと分かりやすくなります

一番南西の部屋に寝ている
日中は洋間にいることが多い

言葉で示すのも、他の人に
伝えやすく有効です

ここで寝ています



支援区分	要援護者の状況	自分のことはできるが、避難所までは身体支援が必要
	家族等の状況	50歳の娘と住んでいるが、日中は仕事でほとんどいない
	個別支援区分	A 家族だけでは無理なので、1人以上の支援が必要 車椅子は玄関にある

ここが重要! 支援のポイント(目安)

災害時避難者台帳の例 (根石中4丁目町内会)

根石中4丁目町内会 災害時援護関係表										平成**年**月**日現在	
組	氏名	性別	区分	年令	家族状況	身体状況	移動	援護	特記事項		
*組	** ** *	女	C	*才	独居		自立	見守り	古い家屋		
*組	** ** *	男	A	*才	二人暮らし	認知症・パーキンソン病	車いす・数m歩行可能	○	古い家屋 近隣援助 デイサービス-月水金日		
	** ** *	女	C	*才		意思疎通	自立	○	近隣援助 通院介助-火木土		
	** ** *	男	B	*才	二人暮らし	中度難聴一補聴器	杖歩行、短距離可能	○	古い家屋		
	** ** *	女	A	*才		重度難聴・視力低下	伝い歩き、一部介助	○	古い家屋 介護保険希望		
	** ** *	男	A	*才	家族	透析・服薬	介助車いす	○	近隣援助 透析一月水金		
	** ** *	女	C	*才	長男同居	視覚障害一弱視	自立	○	倒壊 視力7～8m認識 近隣援助		
	** ** *	男	A	*才	二人暮らし	肝臓病・糖尿病・服薬	自立	○	肝臓で8月に入院 近隣援助		
	** ** *	女	C	*才		脊髄損傷	自立		倒壊 要援護者登録希望 近隣援助		
*組	** ** *	女	A	*才			屋内伝い歩き、シルバーカー	○			
	** ** *	男	A	*才	家族	脳梗塞	介助	○			
	** ** *	男	C	*才		心臓・服薬	自立	見守り○	家族援助		
	** ** *	女	C	*才	家族	変形性膝関節症	屋内伝い歩き、シルバーカー	○			
	** ** *	女	A	*才	家族	認知症一見当識障害	杖歩行	見守り	家族援助		
*組	** ** *	女	A	*才	独居	視覚障害一全盲	介助	○			
	** ** *	男	A	*才	家族		自走車いす	○	緊急通報装置希望		
	** ** *	男	A	*才	家族	心筋梗塞、心不全、要支2	伝い歩き、ゆっくり、杖歩行	○			
*組	** ** *	女	B	*才	独居	腰一前弯、腰痛	シルバーカー	○			
	** ** *	女	C	*才	長男同居		自立	○			
	** ** *	男	A	*才	二人暮らし	腰一前弯、腰痛、膝痛	杖歩行	○	古い家屋 避難場所までの歩行困難		
*組	** ** *	男	C	*才	独居	高血圧、血圧不安定	自立	見守り○	古い家屋		
*組	** ** *	女	A	*才	家族	在宅酸素・服薬	伝い歩き	○			

災害時要援護者台帳の例（藤川西部町内会）

登録災害時要援護者支援名簿

（ 藤川西部町内会 ）

平成*年*月*日現在 27 名

*組	** **様	**歳	一人暮らし、大声呼びかけ、歩行時付き添い
	** **様	**歳	一人暮らし、大声呼びかけ、歩行時付き添い
*組	****様	**歳	一人暮らし、歩行時付き添い、知的平易表現
	****様	**歳	一人暮らし
*組	****様	**歳	一人暮らし、歩行時付き添い、常用薬
	** **様	**歳	大声呼びかけ、人工透析
*組	** **様	**歳	心臓疾患
	****様	**歳	歩行時付き添い、大声呼びかけ、知的平易表現、常用薬
*組	** *様	**歳	下肢障害
*組	** *様	**歳	一人暮らし
	** **様	**歳	一人暮らし、知的こだわり、精神幻覚幻聴
*組	** **様	**歳	一人暮らし
*組	****様	**歳	移動時車椅子、常用薬、****様方同居
	** **様	**歳	一人暮らし
*組	** **様	**歳	一人暮らし、ペースメーカー、精神幻覚幻聴、 （アパート名等）
*組	** **様	**歳	知的平易表現
*組	** **様	**歳	歩行時付き添い、知的平易表現、知的こだわり、知的多動
*組	****様	**歳	声音呼びかけ、大声呼びかけ、歩行時付き添い、 ****様方
*組	** **様	**歳	移動時車椅子、音声呼びかけ、常用薬
*組	** **様	**歳	歩行時付き添い、知的平易表現、知的こだわり、知的多動
*組	** *様	**歳	移動時車椅子、歩行時付き添い、知的平易表現、認知、 常用薬
	** **様	**歳	歩行時付き添い、知的平易表現、知的こだわり、知的多動、 精神大声、自傷
*組	** **様	**歳	体幹、上肢障害、（アパート名等）
	** **様	**歳	知的障害
	** **様	**歳	移動時担架、認知、排尿カテーテル、食事きざみ食
*組	** **様	**歳	移動時担架、滞在時たん吸引、食事きざみ食、常用薬
*組	** **様	**歳	移動時車椅子、歩行時付き添い、常用薬